

平成26年度 日本デザイン学会 第61回総会

■日時：平成26年7月4日(金)
13:00~14:00

■会場：
AOSSA 8Fホール

総会資料

*本冊子は総会資料を綴じ合わせたものです。
限られた時間ですので十分な説明もできかね
ると思いますが、その節は本冊子によくお目
をお通しくださいませようお願い申し上げます。

- 次第 ■司会：小野健太 本部事務局長
1. 総会成立の確認ならびに開会宣言 小野健太 本部事務局長
 2. 会長挨拶・活動方針説明 山中敏正 会長
 3. 議長団選出 小野健太 本部事務局長
 4. 議事 議長団
 - 4.1. 平成25年度活動報告 須永剛司 前副会長
 - (1) 論文審査委員会 久保光徳 前委員長
 - (2) 作品審査委員会 清水泰博 前委員長
 - (3) 学会誌編集・出版委員会 岡崎章 前委員長
 - (4) 研究推進委員会 須永剛司 前委員長
 - (5) 企画委員会 総合企画 松岡由幸 前委員長
 - (6) 企画委員会 支部企画 両角清隆 前委員長
 - (7) 教育・資格委員会 山内勉 前委員長
 - (8) 広報委員会 山崎和彦 前委員長
 - (9) 財務委員会 生田目美紀 前委員長
 - (10) 市販図書企画・編集委員会 井上勝雄 前委員長
 - (11) 平成25年度春季研究発表大会実行委員会 五十嵐浩也 実行委員長
 - (12) 平成25年度秋季企画大会実行委員会 須永剛司 実行委員長
 - (13) 学会各賞選考委員会担当 松岡由幸 前担当理事
 - (14) Designシンポジウム担当 松岡由幸 前担当理事
 - (15) IASDR担当 古屋繁 前担当理事
 - (16) 日本学術会議担当 清水泰博 前担当理事,
森田昌嗣 前担当理事
 - (17) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 松岡由幸 前担当理事
 - (18) 日本工学会担当 國澤好衛 前担当理事
 - (19) 第1支部 両角清隆 前支部長
 - (20) 第2支部 浅沼尚 前支部長
 - (21) 第3支部 國本桂史 前支部長
 - (22) 第4支部 三橋俊雄 前支部長
 - (23) 第5支部 伊原久裕 前支部長
 - (24) 本部事務局 佐藤弘喜 前本部事務局長
 - (25) 家具・木工部会 阿部眞理 主査
 - (26) 環境デザイン部会 清水泰博 主査
 - (27) デザイン史研究部会 立部紀夫 主査
 - (28) デザイン理論・方法論部会 松岡由幸 主査
 - (29) ファッションデザイン部会 常見美紀子 主査
 - (30) 創造性研究部会 永井由佳里 主査
 - (31) タイポグラフィ研究部会 石川重遠 主査
 - (32) サービスイノベーションデザイン研究部会 古屋繁 主査
 - 4.2. 平成25年度決算報告 佐藤弘喜 前本部事務局長
 - 4.3. 平成25年度会計監査報告 青木弘行 前監査,
野口尚孝 前監査
 - 4.4. 平成25年度決算審議 議長団
 - 4.5. 平成26年度活動計画 松岡由幸 副会長
 - (1) 論文審査委員会 久保光徳 委員長
 - (2) 作品審査委員会 小林昭世 委員長
 - (3) 学会誌編集・出版委員会 岡崎章 委員長
 - (4) 研究推進委員会 渡邊誠 委員長
 - (5) 企画委員会 総合企画 松岡由幸 委員長
 - (6) 企画委員会 支部企画 五十嵐浩也 委員長
 - (7) 教育・資格委員会 古屋繁 委員長
 - (8) 広報委員会 岡本誠 委員長
 - (9) 財務委員会 生田目美紀 委員長
 - (10) 市販図書企画・編集委員会 蓮見孝 委員長
 - (11) 法人化対策特別委員会 國澤好衛 委員長
 - (12) IASDR担当 山中敏正 担当理事,
渡邊誠 担当理事
 - (13) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 松岡由幸 担当理事
 - (14) 日本工学会担当 國澤好衛 担当理事
 - (15) Designシンポジウム担当 松岡由幸 担当理事
 - (16) 第1支部 両角清隆 支部長
 - (17) 第2支部 五十嵐浩也 支部長
 - (18) 第3支部 國本桂史 支部長
 - (19) 第4支部 益岡了 支部長
 - (20) 第5支部 井上真一 支部長
 - (21) 本部事務局 小野健太 本部事務局長
 - (22) 家具・木工部会 阿部眞理 主査
 - (23) デザイン理論・方法論部会 松岡由幸 主査
 - (24) 創造性研究部会 永井由佳里 主査
 - (25) サービスイノベーションデザイン研究部会 古屋繁 主査
 - 4.6. 平成26年度予算案説明 小野健太 本部事務局長
 - 4.7. 平成26年度予算案審議 議長団
 5. 議長団退席 小野健太 本部事務局長
 6. 学会出版物の電子化,
およびそれに伴う財務構造の変更について 山中敏正 会長
 7. 閉会挨拶 小野健太 本部事務局長

平成26年度日本デザイン学会活動方針

会長 山中敏正

基本方針

－デザイン学研究の社会的基盤構築に向けて－

こころの世紀といわれる21世紀も14年目に入り、科学・工学の発達は人のこころの理解に基づく物質や情報の価値の再構成を一層進めています。また、度重なる大災害によって、社会やそこで暮らす人々にとってのデザインの重要性について我々自身が認識を新たにしています。さらに、2020年の東京オリンピック開催が決定し社会の大きな変革が期待される中、デザイン学の果たすべき役割も大きくなることが予想されています。

学会運営では平成25年度から学生会員制度を作り、学部学生にも学会参加の可能性を開きました。学会誌はCiNiiを活用した創刊号からの電子化、J-Stageを活用したオンラインジャーナル化・オンライン査読が軌道にのりました。国際面では、10年ぶりのIASDRを日本学術会議・日本感性工学会との共同主催で運営いたしました。開会式には皇太子殿下の御臨席を賜り、700名の参加者という史上最大規模の大会として開催できました。

デザイン学会も設立60年が過ぎましたが、デザインが目指すものは充実し、心地よく、希望を持てる心の状態であり、「人のこころにどのように響くのか」ということを基準とした評価が重要であることは不変です。むしろこころの科学の側面も持つデザイン学の重要性はますます大きくなっていくと言え、新たな時代に対応するためのビジョンを形にしていく必要が求められています。

今期の理事会はデザイン学研究を国内外にさらに広く普及させ、学会の積年の努力の賜である、科学研究費のデザイン学の研究を一層活性化する必要があります。また、デザイン学とデザインの協調、社会における学会の役割の確立、研究者に愛されるソサエティ構築に向けて、組織の再構築も視野に入れた取り組みを、理事会一丸となって展開したいと考えています。

会員諸氏、関係の皆様方より一層のご支援やご協力をお願い申し上げます。

基本施策

- 1. 学会活動の基盤としての、論文・作品・記事のありかたに関する検討**
 - ・論文・作品の適切な審査と、審査基準・対象の確認
 - ・学会誌論文の国際化の推進と学会誌の体系的再構築
 - ・学会誌のオンラインジャーナル化完了
- 2. 法人化に向けた検討**
 - ・法人化に向けた集中的検討と組織改革の具体的検討
- 3. 国際化、国内外他学協会、産官との事業連携強化**
 - ・IASDR2015の準備とIASDRでの企画・運営
 - ・デザイナーの資格制度と継続教育(CPD)、アクレディテーションのあり方に対する検討
 - ・産業界との連携強化
- 4. 学術環境の整備**
 - ・科学研究費・分科「デザイン学」のさらなる拡充に向けた研究活性化の推進
- 5. 春季研究発表大会、秋季企画大会の活性化**
 - ・オーガナイズドセッションを活用した産学官協力研究体制の充実
 - ・春季発表件数の増加策、秋季企画内容の充実策検討
- 6. 広報活動の強化**
 - ・学会の魅力を伝える広報資料の作成
 - ・協賛・広報活動を通じた、関連学会との連携強化
 - ・学会ホームページ充実策の検討
- 7. 支部活動活性化策のさらなる推進**
 - ・支部間、学会との活動情報・成果の共有と連携方法の見直しと強化
 - ・活動単位(支部地区割)の検討
- 8. 研究部会のあり方に対する検討**
 - ・研究部会活動の不断の検証と、学会との連携確認
 - ・研究部会編纂図書刊行、講習会・セミナー等の開催
 - ・専門的、横断的課題による競争的外部資金獲得策検討
- 9. 会員制度の拡大と財務の改善**
 - ・学生会員制度・学生プロポジション等を活用した学会活動の活性化
 - ・制度拡大に伴う財務基盤の整備
- 10. 会則、諸規定の適切な見直し**

平成26年度 会長, 副会長, 監査, 理事一覧

| | | |
|------|---|--|
| 会長 | 山中 敏正 | 筑波大学 芸術系 |
| 副会長 | 松岡 由幸 渡辺 誠 | 慶應義塾大学 大学院 総合デザイン工学専攻 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻 |
| 監査 | 杉山 和雄 清水 泰博 | 杉山デザイン研究所 東京芸術大学 美術学部 デザイン科 |
| 理事 | 青木 史郎 五十嵐 浩也 池田 岳史 池田 美奈子 井上 貢一 岡崎 章 岡田 明 岡本 誠 小野 健太 國澤 好衛 國本 桂史 久保 光徳 小林 昭世 小山 慎一 高野 修治 田村 良一 寺内 文雄 生田目 美紀 萩原 将文 橋田 規子 蓮見 孝 平松 早苗 古屋 繁 細谷 多聞 益岡 了 村上 存 両角 清隆 山田 弘和 山本 早里 | 公益財団法人日本デザイン振興会 筑波大学 芸術系 福井工業大学 工学部 デザイン学科 九州大学 芸術工学研究院 九州産業大学 美術学部 拓殖大学 工学部 デザイン学科 大阪市立大学 大学院 生活科学研究科・生活科学部 はこだて未来大学 システム情報科学部 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻 産業技術大学院大学 産業技術研究科 名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻 武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻 湘南工科大学 工学部 コンピュータデザイン学科 九州大学 芸術工学研究院 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン科学専攻 筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科 慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 芝浦工業大学 デザイン工学部 札幌市立大学 株式会社ars設景研究所 芝浦工業大学 デザイン工学部 札幌市立大学 デザイン学部 岡山県立大学 デザイン学部 東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻 東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 横浜美術大学 美術学部 筑波大学 芸術系 |
| 特設理事 | 工藤 芳彰 佐藤 弘喜 八馬 智 | 拓殖大学 工学部 デザイン学科 千葉工業大学 工学部 デザイン科学科 千葉工業大学 工学部 デザイン科学科 |

平成26年度 日本デザイン学会組織



平成26年度 日本デザイン学会 委員会等一覧

○運営理事, *特設理事, +幹事長

| 本部事務局 | 事務局長 | 副事務局長 | 幹事 |
|-------|--------|-----------------|----|
| | ○小野 健太 | 佐藤 弘喜* 八馬 智* | |

| 委員会 | 委員長 | 委員 | 幹事 |
|------------------|---------|---------------------------------|-------------------------------|
| 論文審査委員会 | ○久保 光徳 | 小山 慎一 寺内 文雄 | 蘆澤 雄亮 植田 憲 加藤 健郎 鄭孟涼 |
| 作品審査委員会 | ○小林 昭世 | 高野 修治 生田目 美紀 橋田 規子 | + 白石学 加藤健郎 永盛祐介 橋本和幸 |
| 学会誌編集・出版委員会 | ○岡崎 章 | 工藤 芳彰* 寺内 文雄 山田 弘和 | + 大島直樹 |
| 研究推進委員会 | ○渡邊 誠 | 萩原 将文 平松 早苗 細谷 多門 | |
| 企画委員会(総合企画) | ○松岡 由幸 | 青木 史郎 村上 存 渡邊 誠 | + 佐藤浩一郎先生 |
| 企画委員会(支部企画) | ○五十嵐 浩也 | 両角 清隆 國本 桂史 益岡 了 井上 貢一 | |
| 教育・資格委員会 | ○古屋 繁 | 蓮見 孝 | |
| 広報委員会 | ○岡本 誠 | 山本 早里 | + 大島 直樹 内山 俊朗 |
| 財務委員会 | ○生田目 美紀 | 小野 健太 | |
| 市販図書企画・編集委員会 | 蓮見 孝 | 松岡 由幸 | + 加藤健郎 佐藤浩一郎 吉岡聖美 |
| 春季研究発表大会概要集編集委員会 | 田村 良一 | 佐藤 弘喜* 細谷 多門 | + 柿山浩一郎 小宮加容子 |

| 特別委員会 | 委員長 | 委員 | 幹事 |
|------------|--------|-------|----|
| 法人化対策特別委員会 | ○國澤 好衛 | 小野 健太 | |

| 委員会等担当 | 担当 |
|-------------------------|---------------|
| 学会各賞選考委員会担当 | 松岡 由幸 |
| 春季研究発表大会担当 | 池田 岳史 |
| 秋季企画大会担当 | |
| IASDR担当 | 山中 敏正 渡邊 誠 |
| 日本学術会議(第一部) 藝術学関連学会連合担当 | 小林 昭世 |
| 日本学術会議(第三部)担当 | 寺内 文雄 |
| 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 | 松岡 由幸 |
| 日本工学会担当 | 國澤 好衛 |
| DESIGNシンポジウム担当 | 松岡 由幸 |

| 支部 | 支部長 | 副支部長 | 幹事 |
|------------------|--------|--------|---|
| 第1支部(北海道・東北地域) | 両角 清隆 | 岡本 誠 | + 柚木 泰彦 伊藤 真市 酒井 聡 福田 大年 堀江 政広 |
| 第2支部(関東地域) | 五十嵐 浩也 | 國澤 好衛 | |
| 第3支部(北陸・中部地域) | 國本 桂史 | 池田 岳史 | + 滝本 成人 加藤 大香士 佐々木 尚孝 黄 崇彬 廣瀬 伸行 西尾 浩一 |
| 第4支部(近畿・中国・四国地域) | 益岡 了 | 岡田 明 | + 谷本 尚子 尾崎 洋 多田羅 景太 |
| 第5支部(九州・沖縄地域) | 井上 貢一 | 池田 美奈子 | + 星野浩司 岩田 敦之 大久保亨 尾方義人 西口顕一 本間康夫 松本誠一 |

| 選挙管理委員会 *平成27年7月31日まで | 委員長 | 委員 |
|-----------------------|-------|-------------------------------|
| | 工藤 芳彰 | 植田 憲 内山 俊朗 永見 豊 八馬 智 |

| 監査 | |
|----|----------------|
| | 杉山 和雄 清水 泰博 |

平成25年度活動報告

論文審査委員会

前委員長 久保光徳

日頃はデザイン学研究論文集へのご寄稿、ご審査などにおきまして大変お世話になっております。昨年度の論文集の発行も、お陰様によりまして無事に終えることができました。心より御礼申し上げます。昨年度の採択論文は、論文28件、論説1件、報告18件となり、うち、和文誌へは26件、英文誌へは21件となりました。ご投稿いただいた90件のうち、10件は残念ながら却下とさせていただきますが、査読者各位からのコメント、回答書を介しての意見の交換が、これからの研究、投稿につながるように心から願っております。昨年度は、論文投稿審査システムが電子化され、紙媒体による投稿システムと混在する形で進められてきましたが、最近の投稿はすべて電子化されたシステムの方で行われるようになって来ております。まだまだ新システムへの移行において多くの問題が未解決のままです。次年度においてはできるだけ速やかに問題点の改善を図り、より積極的にデザイン学研究論文集にご寄稿いただけるように環境整備が進められるように次年度に申し送りしたいと思っております。昨年度も多くの先生方に論文審査のご協力をお願い致しました。いつも無理なお願いにもかかわらず、とても貴重なご意見、ご指摘をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。下に昨年度ご協力いただいた先生方のお名前を恐縮ですが、列挙させていただきます。最後に、ご寄稿いただいた会員の皆様、ご審査にご協力いただいた先生方に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

記

(敬称略、順不同)

Ahmad Aziz Hafiz, Chen Li-Hao, Chou Wen huei, Fan Chen-Hao, Georgiev Georgi V., Li PeiYing,

Lin Rungtai, Loh Wei Leong, Moon Seung Ki, Syarief Achmad, Ueda Edilson Shindi, Wang Chao-Ming, Wang Regina W. Y., Zheng MengCong, Hung Po-Sung, 赤澤 智津子, 秋山 学, 蘆澤 雄亮, 新井 竜治, 石井 雅博, 石橋 圭太, 伊藤 裕之, 井上 征矢, 井上 全人, 伊原 久裕, 今泉 博子, 岩城 達也, 植村 朋弘, 梅田 和昇, 大鋸 智, 岡崎 章, 岡田 栄造, 岡田 明, 岡本 誠, 尾方 義人, 小川 直茂, 小野 健太, 面矢 慎介, 片山 めぐみ, 勝浦 哲夫, 加藤 健郎, 菊池 利彦, 北神 慎司, 木谷 庸二, 木村 敦, 清須美 匡洋, 桐谷 佳恵, 串山 久美子, 久保 光徳, 黒川 文子, 黒須 正明, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 境野 広志, 坂田 勝亮, 坂本 和子, 桜井 俊明, 佐々木 尚孝, 佐藤 弘喜, 白石 光昭, 杉野 幹人, 鈴木 直人, 諏訪 正樹, 曾和 英子, 曾和 具之, 田中 隆充, 田中 法博, 田中 みなみ, 田中 吉史, 田村 良一, 玉田 真紀, 寺内 文雄, 中島 永晶, 中西 美和, 中本 和宏, 梨原 宏, 野宮 謙吾, 萩原 将文, 花里 俊廣, 原田 利宣, 原田 利宣, 日比野 治雄, 平井 康之, 平田 一郎, 侯 茉莉, 堀田 明裕, 前川 正実, 増成 和敏, 松岡 由幸, 松田 憲, 三橋 俊雄, 宮崎 紀郎, 森 亮太, 森田 昌嗣, 山口 雅浩, 山本 早里, 床井 浩平, 吉岡 聖美, 吉田 美穂子, 羅 彩雲, 李 俐慧, 劉 夢非, 以上

作品審査委員会

前委員長 清水 泰博

2013年度も多くの会員の皆様からの御応募ありがとうございます。全26作品の御応募を頂き、審査の結果13作品を掲載することが出来ました(内、作品ムービー付きは6件)。最近の傾向としては情報系の作品応募が増えているようです。作品審査委員会の本年度の業務は作品審査は勿論として、作品集の投稿規定、応募・投稿から掲載までの手順等の規定の改訂を行いました。これは論文集同様に作品集もJ-STAGEに載せるという目的の為にありましたが、作品論文の投稿規

定が創刊時のものから次第に修正されてしまっていたこともあり、改めて全文面の内容を作品審査委員会及び理事会で議論したものです。そして今回の見直しにより、作品論文は下記のように改めて規定されました。今回の作品集もこの規定に則り審査されたものです。

「作品論文とは、自らが参加したデザインの成果物およびそのデザインプロセスに関する省察を論述したものである。すなわち、成果の具体的な内容と目的、その造形性、先見性、独創性、社会性などへの言及とともに、デザインプロセスの構成とそれを展開した行為と思考の特性について論述され、それらがデザイン学として価値ある知見を含んでいるもの。また、萌芽的なデザインであっても、成果物が先進性や独創性に富み、デザインプロセスに関する新しい探求や価値ある考察があり、その発展性が大いに期待できると認められるもの。」

最後に、本19号に応募・投稿頂きました皆様、快く審査を引き受けて頂きました皆様、幹事の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

学会誌編集・出版委員会

前委員長 岡崎 章

まずはここ数年の懸案事項であった「作品集の電子化」に道筋をつけたことを報告します。作品集は平成26年度からJ-Stageにて電子版が公開される予定です。この背景には、作品集の投稿規定、なかでも著作権の取り扱いを見直したことがあります。すなわち、論文の著作権は投稿者が有し、学会はその利用を許諾されるかたちとなりました。あらためまして、作品集編集担当理事をはじめとする関係者の皆様のご理解とご協力に御礼申し上げます。

次に、上記のとおり学会誌(論文集、作品集、特集号)の完全電子化が達成されることを受けて、論文集と作品集

の印刷体が平成26年度をもって廃止される予定であることを報告します。平成27年度から学会が発行する印刷体は特集号のみとなる予定です。つきましては、学会の顔として特集号の大幅なリニューアルが必要であると考え、次年度担当理事への重要な引き継ぎ事項とさせていただきます。

特集号(年4冊)については、「子どものためのデザイン02」(21巻1号、通巻81、担当：岡崎章、工藤芳彰)と「GAME & CG」(21巻2号、通巻82、担当：菊池司)、「実践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか? (仮)」(21巻3号、通巻83、担当：須永剛司)、「これからのプロダクトデザイン」(21巻4号、通巻84、担当：山崎和彦)を発行しました。上記の電子化に関する作業と各号担当者の業務多忙のため、全体的に大幅な遅滞となりました。ここにお詫び申し上げます。

会報につきましては、205～208号を発行しました。新年度に向けては、作品集電子化の完了、論文集投稿規定(主に著作権)の見直し、特集号と会報の発行、平成27年度に向けた特集号のリニューアル検討等、多数の重要事項があり、責任をもって次期委員会へ引き継いでいきたいと考えております。

なお、編集委員は黄ロビン、永井由佳里、寺内文雄、工藤芳彰でした。

研究推進委員会

前委員長 須永剛司

研究推進委員会では、会員のみならずして委員と幹事の協力を得、次の活動を行いました。

①春季研究発表大会のテーマセッション：前年度末に選定した応募テーマをもとに、テーマセッションの運営を行いました。各テーマセッションの企画者に座長の選任やグッドプレゼンテーション賞の推薦など依頼、滞りなくセッションを実施することができました。

②春季大会の「特別フォーラム」：記念イベント「特別フォーラム」は「実

践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか?」をテーマとして企画立案し実施運営を行いました。6月16日(日)に日本デザイン振興会、デザインハブで、約40名の参加者を得て「デザイン知ワークショップ」を実施。その内容をまとめ、6月21日(金)の大会初日に約30名のデザイン実践者の参加を得てフォーラムを実施しました。

③春季大会の「学生交流ワークショップ」：「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろうか?」をテーマにワークショップの企画立案と実施運営を行いました。約40作品が出展され、メンターを交えたグループでの活発な議論と全体発表をとおして学校をまたぐ学びの機会をつくることができました。

④秋季企画大会の「学生プロポジション」：秋季企画大会は多摩美術大学が開催校となり10月19日(土)に開催。全国のデザインスクールから53の作品が出展され6つの優秀作品が表彰されました。「学生交流ワークショップ」と合わせて、学生会員と非会員の学生諸君の参加に感謝します。

⑤研究部会の活性化：平成25年度より各研究部会活動報告を大会総会資料としてまとめ報告を行いました。合わせて研究部会統括運営細則の改定案作成を継続しました。

⑥平成26年度春季研究発表大会に向けてテーマセッション募集を行い、10テーマの選定を行いました。

企画委員会 総合企画

前委員長 松岡由幸

平成25年度の企画委員会総合企画は、創立60周年ならびに科研費における「デザイン学」の新設に伴い、デザイン学における基盤研究の推進を狙いとししました。

まず、6月21日から23日にかけて、筑波大学で実施された春季大会では、第60回大会でもあることを受け、「デザイン学とデザイン」を大会テーマとしました。また、そのオーガナイズド

セッション(OS)においては、「デザイン、デザイン学、そしてデザイン科学」、「視覚的な使いやすさと直感的なインターフェイスデザイン」、「演習課題から探るデザイン学」、「震災後の環境デザインー残すべきものとは」の4件が実施されました。

また、10月19日に多摩美術大学にて実施された秋季企画大会においては、「創造する人材はいかに育成されるのか?」をテーマとして、基調講演、学生プロポジション、パネルディスカッションなどが行われました。その中でも、企業のデザイナーを交えた学生プロポジションでは、デザインの思考過程に関する活発な意見交換が行われ、楽しいひとときでした。

春季大会、秋季企画大会ともに多くの方々にご尽力を賜りました。ここに、新たためて感謝の意を表する次第です。

企画委員会 支部企画

前委員長 両角清隆

2013年度も各支部によって、支部活動は活発に行われました。特に、学生も参加する研究会等が活発に開催され、学会活動の活性化の一翼を担っていると言えます。

一方、今期は支部企画として、稼働の活発化に伴い増加している支部が発行する刊行物等の位置づけ検討いたしました。これは、学会が発行している刊行物等との区別や、デジタル媒体やWebサイト等への掲載刊行物の扱いなどを混乱なく適切に運用するための検討です。

現在、継続検討中ですが、1)支部刊行物の体裁や運用に関する指針やフォーマットが必要であること、2)どの項目をどのように決めるかを検討すること、などが合意されています。

今後、学会の刊行物の名称検討などの推移にも注意しつつ、継続して検討し、決定する必要があります。

教育・資格委員会

前委員長 山内 勉

平成 25 年度は、4 回の委員会を開催し、主要課題である「教育」と「資格」について、具体的な施策を立案するために情報共有と意見交換を行いました。

特に、「デザイン実務者の成果発表媒体」については、デザイン学研究作品集と公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）が主催するグッドデザイン賞（Gマーク）との連携の可能性を検討し、企画案を作成し、それを理事会で議題として提出しました。デザイン学研究作品集のさらなる活性化を実現し、産業界も巻き込みながら「デザイン知」を積み上げることで、ひいては産業界に対するデザイン学会の認知度をあげるといった目的については賛同を得ました。審査方法の調整など実施のための課題について、継続して検討することになりました。

そして、この企画は、デザイン実務者が文章リテラシー向上の教育プログラムを学ぶ講座を、デザイン学会が提供する企画に発展することも話し合いました。

「資格制度」については、公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）がプロダクトデザイン（PD）検定 1 級、2 級制度の上位に位置付けられるプロダクトデザイン・プロフェッショナル認定制度を検討する過程に参画し、継続教育（CPD）の仕組みづくりもあわせて検討しました。

また引き続き、技術者教育認定機構（JABEE）の専門職大学院認証評価委員会委員として、その認証業務に関わり動向を把握しました。

広報委員会

前委員長 山崎 和彦

広報委員会の機能は、会員諸氏と学会活動をつなぐことのマネージメントであると同時に、学会活動と社会、学

会活動と世界をつなぐことです。本年度の主な活動は、1) 現在の Web サイトの運営、2) 今後の Web サイトの検討、3) SNS の活用、4) 協賛学会依頼の検討などの活動でした。1) 現在の Web サイトの運営では、現在の Web サイトの運営を行うとともに、コンテンツ責任者リストのメンテナンス、理事・部会長全員がアップデートできるしくみづくりの検討しました。2) 今後の Web サイトの検討では、リニューアル方針、および新しいシステム構築に向けて構築費用、構築体制について検討しました。3) SNS の活用では、Facebook の効果的な活用の検討、Twitter の連動の検討しました。4) 協賛学会の依頼では、対象は春と秋の大会に向けて協賛学会のコンタリストの作成の検討しました。広報委員会の構成は、小野健太、中本和宏、大島直樹、内山俊朗です。

財務委員会

前委員長 生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に「学生会員制度の導入による財務動向の基礎調査」に絞って活動して参りました。学生会員制度が導入される前後を含めた過去 4 年間の会員数ならびに収支の動向を精査・評価しました。その結果、学生会員数は順調に増加していますが、学生会員から正会員への移行については、今後の同行をさらに追跡する必要がある事が分かりました。また、学生会員制度の導入によって学会財務上、大きな支障がないことが確認できました。

市販図書企画・編集委員会

前委員長 井上 勝雄

平成 25 年度活動について、以下の点をご報告いたします。

デザイン学の基盤構築に向け、一昨年度の理事会にて承認された書籍『デザイン科学辞典』（日本デザイン学会と日本機械学会、日本設計工学会の 3

学会からのメンバーを中心とする企画）の編集を進め、本年度以降の発刊を目指しています。

また、本企画を筑波大学での春季大会のオーガナイズドセッションで、『デザイン科学辞典』と、8月のIASDRでの学術会議連携プログラムでも紹介しました。そして、11月に関係の学会のメンバーで編集内容について討議しました。

平成 25 年度 春季研究発表大会実行委員会 実行委員長 五十嵐 浩也

第 60 回春季研究発表大会は 2013 年 6 月 21 日（金）から 23 日（日）までの 3 日間、筑波大学を会場として行われた。大会を通じたテーマは「デザイン学とデザイン」であった。

21 日は筑波大学大会館において、理事会、総会、学会各賞記念講演が行われ、春季大会の開会式の後、基調講演として株式会社 GK デザイン機構代表取締役社長の山田晃三氏を招き、「デザインの 60 年、その基層とすべき精神について」という講演。また、特別フォーラムとして「実践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか」というワークショップを通じて得た「デザインとはなにか」という問いに対するアプローチの発表が行われた。

22 日は口頭発表、ポスター発表、企業展示が筑波大学の 5C 棟をメイン会場として行われ、日本デザイン学会研究推進委員会による企画、学生交流ワークショップ「デザインの行為と思考：デザインの学生達は何をどう学んでいるのだろう」が終日行われ、学生の活発な活動が展開された。同日午後には本部企画であるオーガナイズドセッション A「デザイン、デザイン学、そしてデザイン科学」セッション B「震災後の環境デザイン？ 残すべきものは」が行われた。夕刻には懇親会が行われ、「常陸野の食」をテーマに有機野菜、海産物地元の人々の手によって加工された食品と地酒、地ビール等が振る舞われた。

23日には、口頭発表、ポスター発表、企業展示が前日と同じ会場にて行われ、特別セッションとして筑波大学で活動中の「CR 創造的復興特別セッション」、また、オーガナイズドセッションC「視覚的な使いやすさと直感的なインタフェースデザイン」、オーガナイズドセッションD「演習課題から探るデザイン学」が行われ、無事に閉会式を迎えた。

いずれの会場も活況を呈し、活発な3日間であったと思われる。大会参加者は552名。発表件数は不成立発表を除き220件（口頭発表：134件、ポスター発表：86件）となっている。企業出展者数は7企業、協賛企業は4団体であり、大会を通じて学生スタッフは76名であった。

平成25年度 秋季企画大会実行委員会

実行委員長 須永 剛司

2013年10月19日（土）午前10時から午後5時に、多摩美術大学 レクチャーホールC、図書館アーケードギャラリーにおいて、平成25年度日本デザイン学会秋季企画大会が、「創造する人材はいかに育成されるのか？」をテーマに開催されました。

山中敏正会長（筑波大学）の開会挨拶の後、佐藤弘喜本部事務局長（千葉工業大学）の司会により学会各賞授賞式が行われました。松岡由幸担当理事（慶應義塾大学）により選考経緯が説明され、小早川真衣子氏、須永剛司氏、高見知里氏、久保田秀和氏、西村拓一氏に年間作品賞、黒川威人氏、原田昭氏、堀田明裕氏、宮崎清氏、早坂功氏に功労賞が授与されました。

開会式に続き、午前の部として須永剛司大会実行委員長（多摩美術大学）の司会により2件の講演が行われました。五十嵐威暢（多摩美術大学学長）による基調講演「瞬間に生まれるもの」では、デザインからアートに及ぶ自身の作品創作の中に流れる創造する精神が語られました。つづく原島博氏（東京大学名誉教授）による招待講演「科

学技術は文化をめざす」では、21世紀の科学技術は生活者のために貢献すべきという主張のもと、心豊かな文化を創造するためのアート&デザインと科学技術の融合の可能性が述べられました。



五十嵐先生基調講演の様子



原島先生招待講演の様子

昼休みを挟んで開催されたのは、多摩美術大学図書館のアーケードギャラリーで学生プロポジションです。全国のデザインスクールから53件の作品が出展され、大会委員長の五十嵐学長より6つの作品に優秀作品賞が授与されました。



学生プロポジションの様子

午後3時から2時間、「デザインをすることの中に埋め込まれるデザイン研究は可能か？」をテーマにパネルセッションが行われました。パネラーにむかえた松本和己氏（日立製作所、デザイン本部）、稲見昌彦氏（慶應義塾大学大学院、メディアデザイン研究科）、植村朋弘氏（多摩美術大学、造形表現学部、デザイン学科）が、それぞれ立場から創造の源を再認識するこ

との面白さを紹介し、新たな学としての可能性を討論、会場を含めたエキサイティングな議論が起きました。セッションのモデレータは須永剛司が務めました。その後、山中敏正会長の閉会の挨拶をもって盛会のもと大会は終了しました。



パネルセッションの様子

大会終了後、多摩美大情報デザイン学科の協力のもとキャンパス内のカフェ・ブーランジェリで交流会が行われました。大会の余韻が残る中、多くの大会参加者が議論に花を咲かせました。

学会各賞選考委員会担当

前担当理事 松岡 由幸

昨年度の学会各賞選考結果を、ご報告いたします。

<年間作品賞>

・小早川真依子、須永剛司、高見知里、久保田秀和、西村拓一：「PhotoLapper: 日常体験をコラージュする活動とツール」

<功労賞>

以下の5名の先生方が授賞されました。

- ・黒川威人
- ・原田昭
- ・堀田明祐
- ・宮崎清
- ・早坂功

なお、昨年度の度学会各賞選考委員会の構成は、以下の通りです。

委員長：青木弘行

委員：清水泰博、庄子兒子、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮崎清、宮内哲、森典彦

Design シンポジウム担当

前担当理事 松岡 由幸

Design シンポジウムは、日本のデザイン・設計に関する学会の共催により、2年に一度開催されています。現在は、当学会に加え、日本建築学会、日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、人工知能学会の6学会が共同で運用しています。

平成25年度は、日本設計工学会が幹事学会として実施されるDesign シンポジウム2014に向けた準備を進めてきました。同シンポジウムは、東京大学生産技術研究所を会場として、11月11日(火)から13日(木)の日程で開催されることが決定しており、一般講演、特別講演、およびDesign シンポジウムのこれまでとこれからを議論する10周年パネルディスカッションなどを企画しております。

当学会からは、小林昭世先生、永井由佳里先生、松岡の3名に加え、若手グループへは小野健太先生と佐藤浩一郎先生が参加しており、デザイン・設計に関わる他学会との連携を深めることで、開催に向けた準備を進めております。

IASDR担当

前担当理事 古屋 繁

IASDRの2013年大会を開催した。

開会式には皇太子殿下の御臨席を賜り、開催校の芝浦工業大学の大学を挙げたご支援のもと、無事に開会することができた。

本会議の日本開催は、デザイン学における世界トップレベルの研究者と日本の研究者、および感性工学と設計工学の研究者、加えて、Design of Excellence や学術会議連携プログラムに参画したデザイン実務者が直接意見を交わす絶好の機会となった。本会議は、世界40カ国1地域におよび多数の国々から、800名の参加者、573件の研究発表があった。参加国数、参加者数ともに、過去4回の大会を超える

数字であり、主催団体の努力がデザイン研究の一層の活性化に大きく貢献したと言える。

開会式の後は山海嘉之教授によるロボットスーツHALのデモンストレーションも含めた基調講演を実施した。日本学術会議との連携プログラム[知の統合としてのデザイン科学と新パラダイム「タイムアクシス・デザイン」]を開催し、市民公開プログラム[安全・安心なコミュニティのデザイン]をテーマとしてデザイン研究を一般市民に説明することができた。

本大会は2006年の学会連合理事会で方向性を見出し、2010年から本格的に計画を開始したが、その後2011年の東日本大震災を受けて激変した日本の環境での開催に対する不安もあったが、2011年秋の第4回大会では急速に復興する日本の状況を説明し、無事開催する事ができた。最終的な研究発表件数は573件であったが、アブストラクト投稿数は1160件を数えた。参加者の登録国数は40カ国1地域であったが、日本からは中南米・アフリカなどから多くの留学生が発表しており、実際の参加者の国数は50カ国ほどであり、まさにデザインの学術研究集会としては、世界最大規模のものとなった。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

担当理事 清水 泰博

日本学術会議第1部傘下の藝術学関連学会連合(日本デザイン学会を含む15学会により構成)による第9回公開シンポジウムは、東京国立近代美術館講堂にて「藝術の腐葉土としてのダークサイド」をテーマに6月7日に多くの人を集め盛会裏に行われたところです。本テーマは広島芸術学会からの提案で、最後まで競った対抗テーマ案は服飾美学会の「藝術と日常」でした(今回デザイン学会からの提案はありませんでした)。今回のシンポジウムは埋もれてしまいがちな暗い闇の部

分に焦点をあてたもので、対象は「九相図」や替女(ごぜ)、戦災の広島、震災の東北などの負の文化遺産などに及び、ダークサイドが、現代の文明を彩り培う影として寄り添っていることを示そうとするものでもありました。

尚、本年度より当藝術学関連学会連合担当理事は小林昭世先生(武蔵野美術大学)と交代することとなりました。デザイン学会からのシンポジウム・テーマ提案は前担当理事の黒川威人先生の折にお手伝いさせていただきました「アートとデザイン~その分離と融合」がありますが、各学会からの提案がそろそろ一巡し、新たな提案が可能になりつつあるように思われます。デザイン学会としては、数年前に後藤泰徳氏から御提案頂いたテーマの見直し、再提案なども視野に入れて進めて頂ければと思います。会員の皆様には今後もシンポジウム・テーマ企画、パネラー候補などの御協力をよろしくお願い致します。またこのシンポジウムはいつも興味深い内容ですので是非ご参加頂ければと思います。

日本学術会議

第三部／理学・工学

前担当理事 森田 昌嗣

日本デザイン学会は、日本学術会議に置かれた3つの部の内、第三部(理学・工学)に所属していますが、特筆すべき活動はおこなえませんでした。

横断型基幹科学技術 研究団体連合

前担当理事 松岡 由幸

横幹連合は2003年4月に創設され、昨年で10周年を迎え、定期刊行物である雑誌「横幹」では、特別企画「横幹連合:10周年を迎えて」を、企画・観光しました。

当学会からは、松岡が理事・会誌編集委員長として参画しており、その特別企画号の編集を行いました。本特別

企画号では、初代会長の吉川弘之先生をはじめとした歴代会長の論考、総合科学技術会議の議員の先生方からの寄稿など、盛りだくさんの内容でした。

また、12月には、香川大学で大会が行われ、横幹連合に所属する各学会の学会長懇談会が実施されました。そこには、松岡が会長代理で参加し、文理融合という点では先導的に長い歴史を有する当学会の状況を説明するなどが行われました。

日本工学会

前担当理事 國澤 好衛

工学系の学協会の連合組織である公益社団法人日本工学会は、加盟する学協会が抱える共通的な課題を議論する場として機能しています。本学会では、学協会の運営事務に関わる「事務研究委員会」および各学協会の取り扱う技術分野の継続教育の推進に関わる「CPD協議会」に参加しています。そのなかで、現在は、公益法人制度改革に伴う新公益法人への移行、学協会運営のための会計・税務、役員選挙等における電子投票制度の可能性、学協会の情報セキュリティへの取り組みや継続教育の制度化等を議論しています。その内容については、一部を理事会、評議員会で報告していますが、今後も情報収集につとめ、本学会の運営改善につなげていきたいと思えます。

第1支部

前支部長 両角 清隆

第1支部では、2年に一度持ち回りで支部大会を開催し、第5回支部大会を9月6日(金)~7日(土)に東北工業大学長町キャンパス(仙台市)をメイン会場として開催した。学生ワークショップ、研究発表、講演が実施された。教員、学生や市民合わせて60名程度が参加し、規模は大きいとは言えないが活発な交流が行われた。特に、

日頃交流の機会が少ない学生にとって、他大学の学生や教員としっかり時間を取った直接的な交流ができたことは良い経験になった。

一方、支部大会のほかに学生の交流ワークショップ等を実施する案もあったが、準備を進めることができず、平成26年度以降の課題となった。

第2支部

前支部長 浅沼 尚

本支部では、関東圏に勤務・在住しているデザイナーが多いことを生かし、まず、多くのデザイナーとデザイン分野の教育・研究者が直接対話を可能とする産学連携イベントを推進してまいりました。平成25年8月1日(木)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会第2支部の2013年度活動：「デザイン塾：デザイン科学、Mメソッド、そしてタイムアクシスデザイン」が開催されました。本活動は、デザイン理論・方法論研究部会(DTM)とデザイン塾による主催、第2支部、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会の共催により行われました。



会場風景

はじめに、DTM主査の松岡より、知の統合としてのデザイン科学とデザインの新たなパラダイムであるタイムアクシスデザインの説明がなされました。まず、細分化された様々なデザイン領域の共通の基盤を目指す「デザイン科学」と、その基盤をなすデザイン理論

の枠組みの1つである多空間デザインモデルについての紹介がなされました。また、これらのデザイン科学において蓄積された知見を世界へ発信するための「デザイン科学辞典」が公開されました。さらに、デザインの理論や方法論に時間軸の概念を導入するデザインの新たなパラダイムであるタイムアクシスデザインの概念の説明が行われました。特に、年・月、日・時、および分・秒などの異なる時間スケールを考慮するマルチタイムスケールモデルを紹介し、時間軸導入に対するデザインの新たな可能性について話題提供がなされました。

つぎに、湘南工科大学の高野修治教授より、デザイン科学の応用である「Mメソッド」とその事例適用に関する説明が行われました。また、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科のJaime Alvarez 特任講師より、多空間デザインモデルに基づく社会文化的アプローチによるコミュニティ・モビリティシステムの分析について講演が行われました。さらに、DTMで議論が進められている「タイムアクシス・デザイン」のモビリティシステムへの応用についての講演が上村昭一氏(マツダ株式会社)より行われました。

さいごに、デザイン科学やタイムアクシスデザインに基づく研究事例や作品(全5件)の紹介が学生より行われました。

本活動においては、デザインに関わる研究・教育者の方々(岡山県立大学、静岡文化芸術大学、芝浦工業大学、湘南工科大学、東海大学、長岡造形大学)、実務者の方々(GKテック、HDS、デジタルプロセス、東芝、東芝テック、ニコン、日産自動車、マツダ)、学生を含む約50名の方にお越しいただき、デザイン科学とタイムアクシスデザインの可能性について活発な議論が行われました。

第3支部

前支部長 國本 桂史

第3支部では、会員交流と活動の活性化に加え、平成25年度は学生会員の拡大も目標として、下記の事業を実施しました。

1. 第3支部研究発表会・懇親会

目的：第3支部会員のデザイン活動・研究内容を発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通して交流を深めるとともに、学生に学会発表の機会を提供すること。

日時：平成26年3月21日（金・祝）
午前11:00～

内容：口頭発表、ポスター発表、表彰、懇親会

会場：福井工業大学福井キャンパス（福井県福井市学園3丁目6-1）

参加：47名（会員17名、非会員9名、学生21名）

発表：35件（口頭23件、ポスター12件）

概要：今回が9回目の開催となった本研究発表会では、山中敏正会長に開会式でのご挨拶、口頭発表へのご参加をいただきました。今年度は2会場を設定することで、大会と同様の発表時間を確保しました。ポスター発表は従来通り、懇親会を兼ねて行いました。また、若手研究者の奨励のために、優秀発表賞制度を今年度も実施し、学生発表者5名を選出、表彰しました。さらに今回以降、第3支部研究発表会概要集表紙にISSN（国際標準逐次刊行物番号）を継続して表示することとしました（ISSN 2188-479X）。



第3支部研究発表会風景

2. 日本デザイン学会第3支部奨励賞事業

日本デザイン学会第3支部では、支部会員のデザイン活動や研究活動の発表の場として、研究発表会、懇親会を開催し、会員間の交流を促進して参りました。これまでの研究発表会においても、学生、大学院生によって将来性を感じさせる優秀な作品や研究成果が発表され、学生間の刺激や交流が図られてきたと考えています。

これまでの成果、日本デザイン学会の学生会員制度スタートといった状況を踏まえ、支部幹事会において議論した結果、学生、大学院生のデザイン活動、研究活動の評価のための学生表彰制度と学生間交流の活発化を目的とした学生会を順次スタートさせることとしました。この内、学生表彰制度につきましては、各所属機関（大学、大学院、短期大学）において優秀な研究、制作活動を行った学生、大学院生を対象とした奨励賞と、第3支部研究発表会における優秀な研究発表、ポスター発表を対象とした研究発表学生賞の2制度を設けることとし、昨年度よりスタートさせました。

平成25年度受賞者 13名

第4支部

前支部長 三橋 俊雄

1) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、2014年2月2日（日）、和歌山大学システム工学部A棟にて開催し、以下の口頭発表と研究交流が行われた。当日の発表などのスケジュールは下記の通りで、口頭研究発表は、岡山県立大学5件、京都工芸繊維大学6件、京都府立大学3件、和歌山大学4件、一般2件の計20件、内ポスター発表4件、大会参加者は30名であった。発表会後、懇親会が行われた。

■実行委員長：山岡俊樹（和歌山県立大学）

■開催期間：2014年2月2日（日）
10:30～16:45（10:00より受付）

■会場：和歌山県立大学 〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930

■プログラム

●研究発表：

会員・学生・一般による口頭発表、パネル発表

会場：国立和歌山大学 システム工学部A棟, A103, A104 教室

< 10:30-12:00 > 口頭発表

10:30-10:45 今井景太, 高齢者の生活機器使用に関する調査

10:45-11:00 益田雄司, 仮設住宅居住者のQOL向上のための調査

11:00-11:15 齊藤千容, 若者をターゲットとした西陣織テキスタイルデザインの提案

11:15-11:30 鳥居秀作, 井山宝福寺でのデザイン活動とその情報発信について

11:30-11:45 尾崎洋, 岡山県立大学サテライトラボでのデザイン活動

11:45-12:00 益岡了, レーザー加工機を用いたデザイン教育の実践

< 12:00-13:00 > 昼食

< 13:00-15:00 > 口頭発表

13:00-13:15 青島駿太, ハプティクスにおけるユニバーサルデザインへの活用可能性

13:15-13:30 安井鯨太, ベルクソン哲学によるUSER EXPERIENCE DESIGNの考察

13:30-13:45 前川正実, 消防団における小型動力ポンプ積載車のUIと情報デザインに関する予備的研究

13:45-14:00 茶木盛暢, ユーザ特性とメンタルモデル構築度合いに着目した製品デザイン評価提案

14:00-14:15 佐藤栄作, ユーザビリティ調査による高齢者と若年者のデジタルカメラ利用の現状

14:30-14:45 加藤夏来, 製造業のサービス要素の抽出とその応用方法の検討

14:45-15:00 平田一郎, 薄型柔軟膜を用いた伸縮インタフェースの検討

< 15:00-16:00 > ポスター発表

山奥淳史, 岡山県立大学サテライトラボでの3Dワークショップ(1)

佐藤菜生, 福知山市における観光資源に対する住民の意識調査

益岡了, 立体映像を用いた映像デザイン教育

松尾秀行, Wikipediaデータベースを利用した類推型発想支援システムの開

発

< 16:00-16:45 > 口頭発表

16:00-16:15 中坊公一, 現代の祭りの功罪に関する研究

16:15-16:30 中村仁美, 京丹後市袖志地区の自然共生の様態—おかずとりとしての磯漁を中心に

16:30-16:45 朱璽萱, 中国・無錫の水郷空間における観光開発と生活文化に関する研究—南長街を事例として—

< 17:15 - 19:00 > 懇親会

第5支部

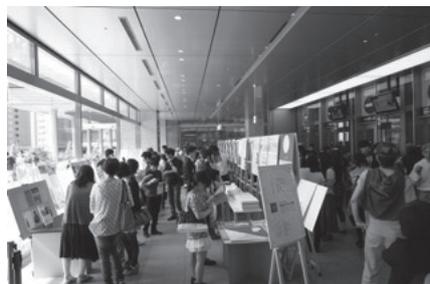
前支部長 伊原久裕

第5支部では、九州・沖縄地区の所属会員の交流、ならびにデザイン研究・教育の成果の地域への発信を目的として、学生作品展と研究発表会・懇親会の2つの事業を毎年実施しています。平成25年度に実施したこの2つの事業について報告いたします。

1. 第5回九州・沖縄地区学生デザイン展

6月11日(火)から16日(日)までの6日間、JR博多駅ビル構内のJR博多シティ(2階中央エレベータ前フロア)において、「第5回九州・沖縄地区学生デザイン展」を開催しました。出展作品数は38点、参加校は8校(大分県立芸術文化短期大学、九州大学、九州産業大学、九州造形短期大学、近畿大学、久留米工業高等専門学校、崇城大学、西日本工業大学)、人通りの多い商業空間であったことから、来場者数は6日間で約2,000名(概算)ほどにもなりました。また、学生賞として下記の4作品が「優秀賞」として選定されました。「Town Map」: 伊藤美香子(九州造形短期大学)、「EV実証実験に関わるデザイン提案」: 楠田朱季子、宇野由紀、金子優希、緒方まり、本田寛貴、田中貴司、田中純土、溝口玲司、山口聡一郎、竹内数馬、下村寧崇、南郷貴俊(崇城大学)、「ESORA / 児童用ホワイトボード(コクヨデザインアワード2012 優秀賞受賞作)」: 迫健太郎、今城 菜穂、溝部 洋平、藤中 康平(九州大学芸術工学部)、「休耕及び

耕作放棄された水田の維持管理のためのデザイン研究」: 森恭平(九州大学芸術工学部)。



第5回学生デザイン展

2. 研究発表会・懇親会

「研究発表会・懇親会」を、平成25年10月5日(土)に崇城大学で開催しました。発表件数は、研究発表40件、学生発表9件、参加者数は89名と盛況で、活発な討議が交わされました。また、学内見学会を開催し、崇城大学教授本間先生のご案内で、同大学芸術学部の充実した環境を見聞することができました。最後に恒例の懇親会を同大学食堂にて開催し、参加者52名を得て盛況のうちに終了しました。



研究発表会

本部事務局

前本部事務局長 佐藤弘喜

平成25年度末の会員数は、正会員1,484名、学生会員数234名、賛助会員数29件、年間購読会員57件です。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,718名で、昨年の同時期(1,775名)と比較して57名の減少となりました。

会員制度の問題点として、学生会員制度の発足以来、学生会員の手続きが懸案となっています。学生会員で年度末の更新や卒業後の移行手続きを行わない会員が多く、事務局による会員資

格の確認や会費の督促に関する作業負担が大きくなっています。入会時の案内に更新などの手続きについて明記するなどの対策を行ってきましたが、今後に向けて、より円滑な更新手続きが行われるようにするための措置が必要です。また、会員数の減少を防ぐため、卒業に際して退会することが多い学生会員に、正会員への移行を促すための対策を検討すべきであると考えます。

法人化問題については、理事会内におけるワーキンググループにおいて法人化に向けた検討を進めてきましたが、理事会組織の変更に伴い、ワーキンググループの構成を見直したうえで、今後も具体化のための検討を継続する必要があります。

家具・木工部会

主査 阿部眞理

平成25年度においては、これまで継続して開催してきた研究部会総会、および春季研究発表大会における研究部会主催のテーマセッション等が諸事情により実施できず、会員への家具・木工関連の情報の配信にとどまった。配信した情報としては、「木の文化フォーラム」開催通知等である。

環境デザイン部会

主査 清水泰博

環境デザイン研究部会では、前年度2012年のテーマ「安心安全～震災後の環境デザイン」を受け、2013年度の部会テーマは「震災後のデザイン～残すべきものとは」とし、平成25年度の第60回春季大会においては同テーマにてオーガナイズドセッションを行いました。これは前年度より行っている南三陸町防災対策庁舎の保存運動を進めるにあたり、過去の事例(広島、神戸)から学ぶことを第一義に考えたものです。そこで両地域で活動されている方をお呼びし、また東北からは考古学の立場から残すことの本質的な意味をお聞きし、議論したものです。

このオーガナイズドセッションの討議内容については全てを記録し、環境デザイン部会の機関誌であるED-Placeに2度に渡って掲載しました(年に3回発行されるED-Placeのもう一つの号は、毎年行っている各大学の環境デザイン系の学生優秀作品を掲載したものの)。

今期のフォーラム及び見学会は「東京駅の夜の景観を考える」というテーマのもと、KAN no KAI(東京藝術大学環境デザイン研究会)との共催として行いました。講師には新たな東京駅のデザインに関わられたKAN no KAIメンバーの面出薫氏、富田泰行氏、田中一雄氏をお呼びし、東京駅の照明及びサインのデザインのお話をお聞きし議論しました。そしてその後は八重洲から丸の内まで夜の東京駅周辺の見学会を行いました。

平成26年度の第61回春季大会においては「50年後のしあわせな暮らし」をテーマにオーガナイズドセッションを行います。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

平成25年度デザイン史部会では以下の発表形式の研究会を開催した。本年度も同様の研究会を進めていきたい。

■第30回研究会

開催日:平成26年1月25日

テーマ:「1960年代のデザイン活動」

発表者:君島昌之氏(日本デザイン学会名誉会員)

場所:マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

参加者:17名

1960年代におけるデザイン活動として、1960年に東京で開催された「世界デザイン会議」、1964年開催のオリンピック東京大会、そして1970年に大阪で開催の日本万国博覧会を概観し、それらのデザイン活動に関わった人物と内容を多くの資料をもとに検証。活発な討論がなされた。

■第31回研究会

開催日:平成26年3月21日

テーマ:「コロマン・モーザーの空間デザイン —その革新性と文様の分析—」

発表者:川崎弘美氏(パルナスウィーンインテリア主宰)

場所:マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

参加者:13名

ウィーン分離派の有力メンバーであったコロマン・モーザーは自らを画家と位置付けながらも、絵画、工芸、家具、グラフィック、テキスタイルのデザインなどで才能を発揮し活躍した。画家が手掛けることはまれな空間デザインについて、現地の貴重な資料を活用しながら話題提供がなされた。

デザイン理論・方法論部会

主査 松岡 由幸

本デザイン理論・方法論部会は、デザイン方法論部会を拡張するかたちで、平成20年(2008年)4月に設立されました。その後、春季大会では毎年、4、5件の企画セッションによる発表を継続するとともに、平成24年度までに、13回のシンポジウムや研究会を実施し、延べ200名以上の国内外のデザイナーや研究者が集い、デザイン理論・方法論の構築に努めてきました。

平成25年度においては、まず、筑波大学で行われた春季大会にて、2件の企画セッション、合計7件の研究発表を行いました。

また、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、および日本設計工学会設計理論・方法論に関する研究調査分科会との連携の下、『デザイン科学事典』の編纂を進めております。この事典は、webシステムによるもので、タイムアクシス上での成長型事典であるとともに、新たな枠組みが生まれた際には、それに沿った用語解説の配置(目次)を追加可能とするなど、幾つかの新たな特徴を導入しております。11

月16日には、JSSD理事の先生方や他学会のDesignシンポジウム委員の先生方を交えた『『デザイン科学事典』企画編集準備委員会』を開催し、編集体制や組織について議論しました。今後も、多くの方々の協力を仰ぎながら同事典の編纂を進めていく予定です。

さらに、8月1日には、慶應義塾大学協生館において、デザイン塾「デザイン科学、Mメソッド、そしてタイムアクシスデザイン」を主催し、デザイン科学やタイムアクシスデザインに基づく研究事例や作品(全5件)の発表がなされました。

ファッションデザイン部会

主査 常見美紀子

ファッションデザイン部会の25年度の研究例会は、2014年3月8日(土)に大妻女子大学千代田キャンパスにおいて、午後3:00~5:00まで行なわれた。若手研究者である、お茶の水女子大学の難波知子さんが「大衆衣料としての学生服の量産と普及—岡山県倉敷市児島を事例に—」と題する研究を発表した。その後、参加者から活発な質問がなされ、和やかなうちに有意義に研究例会を終えることができた。26年度の研究例会は、9月に行う予定である。

創造性研究部会

主査 永井由佳里

デザインの創造性とイノベーションについて、創造性研究部会メンバーを中心に学会内外の研究者、実践者、学生と議論を重ねた。第60回春季研究発表大会では、創造性研究部会の企画によるテーマセッション「デザインの理論と実践における「つくる」と「わかる」」での研究発表を募集し、16件の研究発表が行われた。汎用システムデザインプロセスの提案、デジタル体験システムの開発と実践、印象表現の評価、デザインプロジェクトの評価、人間中心のデザインによる情報伝達、

デザインや造形による学び、ワークショップによる協働のデザインなど、創造的なデザインを考え、実践するうえで重要な成果が報告され、質疑応答が行われた。本研究部会は国際的に展開しているが、創造性研究部会に深い関わりを持つ研究者が多数 IASDR に出席し、部会メンバーと活発に交流することができた。

タイポグラフィ研究部会

主査 石川重遠

タイポグラフィ研究部会では、日本デザイン学会春季研究発表大会において毎回部会会議を開催し、部会員の企画・提案、ひとり一人の意見の交換を部会の運営に反映している。このような会員の直接の交流は、現在のタイポグラフィ及びデザインの動向や直面している諸問題や研究課題を知ること、相互の活動への刺激になり、これを大切にしている。昨年の筑波大学における春季研究発表大会では、タイポグラフィに関する研究発表も行われ、部会会議も開催し、有意義であった。

平成 26 年度の活動として、印刷博物館（東京）と共催で年間 2 回程のタイポグラフィに関する講演会を継続的に行う企画が話し合われている。すでに本年 5 月 16 日に印刷博物館において英国レディング大学タイポグラフィ & グラフィックコミュニケーション学科のジェリー・レオニダス先生の講演を実施した。

他に研究会の開催も検討中である。

サービスイノベーションデザイン研究部会

主査 古屋繁

平成 25 年度開催された IASDR 2013 では、サービスデザインに関する研究発表の企画と支援を行いました。サービス工学の中心的存在である新井民夫先生（芝浦工業大学）に、Keynote Lecture で「Design of Service — Design of Use and Design

in Use」のタイトルでの講演と、Panel Discussion では「Does Design of Service Require the Participation of Customers?」というテーマで、2 名のパネリストに先生を加えて、サービスデザインにおける新たなデザインの仕方について議論をおこないました。また、Invited Session では、6 件の発表があり、サービスデザインに関する機運の高まりを強く感じることができました。

残念ながら、研究部会としては、勉強会などの開催を考えていましたが実施することは大いに反省しなければならなかったと考えています。

平成25年度（平成25年4月1日－平成26年3月31日）決算報告

〔一般会計〕

■収入の部

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 増減 対予算額 | 決算額内訳 | |
|----------------|------------|------------|------------|---|---------------------------------|
| 平成24年度繰越金 | 12,001,692 | 12,001,692 | 0 | | 12,001,692 |
| 1 正会員費（現） | 16,588,000 | 15,218,000 | -1,370,000 | ①13,000 徴収数 1,137名 ②6,500 徴収数 68名 | 14,776,000 442,000 |
| 2 正会員費（新） | 1,730,000 | 1,777,500 | 47,500 | ①18,000×63名（一般 入会金：5,000、年会費：13,000） ②6,500×99名（学生 入会金：免除、年会費：6,500） | 1,134,000 643,500 |
| 3 賛助会員費（現） | 910,000 | 879,580 | -30,420 | 24件 | 879,580 |
| 4 賛助会員費（新） | 30,000 | 0 | -30,000 | | 0 |
| 5 年間購読会員費（現） | 1,475,000 | 1,764,500 | 289,500 | ②5,000×71件 | 1,764,500 |
| 6 年間購読会員費（新） | 50,000 | 0 | -50,000 | | 0 |
| 7 広告費 | 200,000 | 50,000 | -150,000 | 1件 | 50,000 |
| 8 学会誌掲載別刷料・負担金 | 4,140,000 | 2,135,000 | -2,005,000 | 論文集別刷料・刷-印刷負担金 作品集別刷料・刷-印刷負担金 12年度作品集別刷料・刷-印刷負担金 | 1,325,000 170,000 640,000 |
| 9 概要集売上金 | 1,750,000 | 1,855,000 | 105,000 | ③3,500×530冊 | 1,855,000 |
| 10 雑収入 | 850,000 | 848,919 | -1,081 | 学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 | 43,500 802,009 3,410 |
| 計 | 39,724,692 | 36,530,191 | -3,194,501 | | 36,530,191 |

■支出の部

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 増減 対予算額 | 決算額内訳 | |
|------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--|--|
| 本部事務局&理事会関係 | 9,217,000 | 7,612,634 | -1,604,366 | | |
| 1 本部事務局経費 | 7,917,000 | 6,583,034 | -1,333,966 | 消耗品代 運営経費（春季大会出張費用含む） パート雇用費（@150,000×12、@150,000×2） 通勤費（@6,000×12） 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料（@150,000×12ヶ月） 光熱費 アルバイト雇用費（宛名整理、書類作成、発送、名簿管理補助等） 税金準備金、労災保険料 会増借用料、理事会運営経費等 | 122,259 68,657 2,100,000 72,000 0 680,491 151,060 123,076 110,880 1,800,000 134,015 1,035,000 185,596 320,755 |
| 2 理事会運営費 | 300,000 | 320,755 | 20,755 | 役員活動に対する補助 | 495,000 |
| 3 役員活動費 | 600,000 | 495,000 | -105,000 | 選挙に関する費用 | 213,845 |
| 4 選挙経費 | 400,000 | 213,845 | -186,155 | | 213,845 |
| 出版関係 | 1,470,000 | 854,098 | -615,902 | | |
| 5 論文審査委員会経費 | 480,000 | 480,000 | 0 | 前年度残金 作品集編集費 | 480,000 250,000 |
| 6 作品審査委員会経費 | 250,000 | 61,589 | -188,411 | | 5,000 |
| 7 学会誌編集・出版委員会経費 | 90,000 | 5,000 | -85,000 | 第20巻3号編集委員会 第20巻4号編集委員会 第21巻1号編集委員会 第21巻2号編集委員会 | -58,769 106,278 130,000 130,000 |
| 8 特集号編集委員会経費 | 650,000 | 307,509 | -342,491 | | 130,000 |
| 学会誌印刷・通信関係 | 23,870,000 | 14,334,137 | -9,535,863 | | |
| 9 印刷費 | 21,770,000 | 12,468,225 | -9,301,775 | 平成24年度論文集（1冊） 平成24年度特集号（4冊） 平成24年度作品集（1冊） 論文集（5冊） 特集号（0冊） 作品集（0冊） 概要集（800冊印刷） 封筒代 | 989,625 3,215,100 2,002,455 5,236,035 0 0 672,000 353,010 |
| 10 出版物通信費 | 2,100,000 | 1,865,912 | -234,088 | 郵送料・事務代行料金（前年度分を含む@350,000×8） | 1,865,912 |
| 大会関係 | 2,027,500 | 834,714 | -1,192,786 | | |
| 11 大会補助費 | 750,000 | 130,880 | -619,120 | 平成25年度秋季大会補助 平成25年度春季大会補助 平成26年度春季大会補助 | 130,880 -500,000 500,000 |
| 12 春季大会概要集編集委員会経費 | 557,500 | 131,250 | -426,250 | 平成25年度大会 編集費・書類作成費（平成25年度分） アルバイト雇用費（平成25年度分） 通信費（平成25年度分） 演題登録システム（PASREG）利用料 | 0 0 0 0 131,250 |
| 13 春季オーガナイズドセッション費用 | 400,000 | 169,732 | -230,268 | | 169,732 |
| 14 学会セミナー費用 | 100,000 | 140,343 | 40,343 | | 140,343 |
| 15 総会準備経費 | 20,000 | 17,136 | -2,864 | 総会経費、委任状・資料印刷代 | 17,136 |
| 16 学会各賞選考委員会経費 | 140,000 | 83,496 | -56,504 | 書類作成費（学会各賞推薦状・資料等） 通信費 賞状・記念品代 会議費 | 22,680 0 60,816 0 |
| 17 国際デザイン会議 | 60,000 | 161,877 | 101,877 | 国際デザイン会議会費（500\$） 国際デザイン会議活動費 | 55,070 106,807 |

| | | | | |
|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---|
| 委員会関係 | 1,550,000 | 821,573 | -728,427 | |
| 18 委員会経費 | 200,000 | 86,445 | -113,555 | 共通費 86,445 |
| 19 研究部会共通経費 | 400,000 | 224,554 | -175,446 | 共通費 (6研究部会) 224,554 |
| 20 支部活動補助費 | 900,000 | 510,574 | -389,426 | 4支部 510,574 |
| 21 市販図書企画・編集経費 (デザインの歩み) | 50,000 | 0 | -50,000 | 編集費 0 |
| 広報関係 | 550,000 | 91,440 | -458,560 | |
| 22 広報費 | 550,000 | 91,440 | -458,560 | 大会ポスター、ちらし作成費・通信費 91,440 ホームページリニューアル 0 その他 0 |
| その他 | 1,040,192 | 11,981,595 | 10,941,403 | |
| 23 学協会関連 | 405,000 | 292,750 | -112,250 | 学術会議活動費 (@60,000+@30,000) 27,450 芸術関連シンポジウム分担金 15,000 日本工学会活動費 0 日本工学会会費 30,300 CPD協議会会費 50,000 JABEE年会費 100,000 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 70,000 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 0 |
| 26 予備費 | 635,192 | 90,000 | -545,192 | 90,000 |
| 27 次年度繰越金 | 0 | 11,598,845 | 11,598,845 | 11,598,845 |
| 計 | 39,724,692 | 36,530,191 | -3,194,501 | 36,530,191 |

[特別会計]

| | 平成24年度 決算額 | 平成25年度 決算額 | 増減 | 決算額内訳 |
|-------------|---------------|---------------|-----------|--|
| 学会本部事務局常設基金 | 11,279,349 | 15,294,518 | 4,015,169 | 利息(¥15,169-) : 基金に繰り入れ IASDRより¥4,000,000返済 |

平成25年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

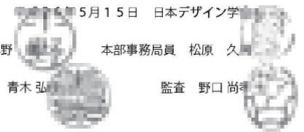
本部事務局長 佐藤 弘

本部事務副局長 小野

本部事務局員 松原 久

監査 青木 弘

監査 野口 尚



平成26年度活動計画

論文審査委員会

委員長 久保光徳

日頃はデザイン学研究論文集へのご寄稿、ご審査などにおきまして大変お世話になっております。昨年度の論文集の発行も、お陰様によりまして無事に終えることができました。心より御礼申し上げます。昨年度から論文投稿、論文審査における電子投稿・審査システムが稼働し、以前の紙媒体中心のシステムからの移行が進められています。この移行に伴って、ご連絡の行き違いや混乱が生じておりますことにご場をお借りして深くお詫び申し上げます。一日も早く新システムでの論文投稿審査業務が安定するように尽力したいと思っております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。この電子化によって、より広範囲への、そしてより迅速なデザイン学会会員における研究成果の公表が可能になると信じております。そのためにも和文のみならず英文での研究成果公表の効率化を図りたいと思っております。今年度喫緊の目標の一つは、現状では和文と英文が混在しているデザイン学研究論文集の書式、投稿規定の見直し、そして著作権の扱いも含めた改善、改訂を進めることです。そして、最終目標としては、和文誌と英文誌をそれぞれに独立した形で発行することを可能にし、国際的な評価基準の土俵にデザイン学研究論文集が上げられるように環境整備を図る予定です。これに合わせて、学会HPからの論文投稿環境の改善を図り、国内外の会員各位より、より多くの論文が寄稿されるように致したいと思っております。そこで本年度は、論文審査委員会に、委員長1名の他、委員2名、幹事4名をお願いし、計7名で論文審査委員会の運営を実施させていただくこととしました。さらには、昨年度に続き、投稿論文のご審査をお願いさせていただく学会員各位の増強も図りたいと思っております。できるだけ多

くの会員各位にご投稿いただくと同時に、できるだけ多くの会員各位にデザイン学研究へ投稿された論文のご審査もお願い致したいと思っております。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかとは思いますが、どうぞご理解とご協力をいただければと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

委員 小山 慎一、寺内 文雄
幹事 蘆澤 雄亮、植田 憲、加藤 健郎、
鄭孟涼

作品審査委員会

委員長 小林 昭世

本年度も2013年度に引き続き作品集の充実を目指したいと思っております。このためには、会員の皆様からの多くの応募を期待いたします。また、厳密な作品審査にくわえ、刊行スケジュールにそった迅速な審査につとめていきたいと思っております。

また、今年度は、作品集を冊子とDVDで刊行するほか、昨年、清水委員長のもとで、「投稿規定」「執筆要領」「応募・投稿から掲載までの手順」を整備し、準備を進めてきたJ-STAGEでの公開（オンライン・ジャーナル化）を目標にします。

この冊子の刊行とオンライン・ジャーナルとしての公表につきましては、学会誌出版編集委員会と連絡を取りながら、その活動を支援していくこととなります。

2014年度作品審査委員は、高野修治、生田目美紀、橋田規子の各理事と加藤健郎、白石学、永盛祐介、橋本和幸の各幹事です。

学会誌編集・出版委員会

委員長 岡崎 章

前年度に引き続き当委員長を担任することになりました岡崎です。平成26年度の活動計画につきましては、前年度の活動報告で示したとおり、作品集電子化の完了、論文集投稿規定（主

に著作権）の見直し、特集号と会報の発行、平成27年度に向けた特集号のリニューアル検討等に取り組んでいきます。特に、今年度はすべての学会誌が印刷体と電子体で併存する最初で最後の年度となる予定です。スムーズな移行のために関係理事と力を合わせて計画を遂行していく所存です。

特集号（年4冊）につきましては、第22巻1～4号（通巻85～88号）を発行する予定です。今後の特集号に関するアイデアをお持ちの方は担当理事までご一報下さい。

なお、編集委員は工藤芳彰、寺内文雄、山田弘和、大島直樹（幹事）です。

研究推進委員会

委員長 渡邊 誠

研究推進委員会では、①研究部会の活性化、②研究部会活動に関わる学会規定の見直しから改訂案づくりの継続、③第61回春季研究発表大会の学生交流ワークショップの実施運営、④同大会のテーマセッションの運営、⑤本年度秋季企画大会における企画運営、⑥来年度春季研究発表大会テーマセッション募集を行います。

①研究部会の活性化：昨年度より、各研究部会に活動報告・計画の報告をお願いし、総会資料に掲載することとし、本年度は、16部会のうち、10部会から報告があった。

②研究部会活動に関わる学会規定の見直しから改訂案づくりの継続：研究部会統括運営細則の改定案引き続き作成を行っている。

③今回の春季研究発表大会の学生交流ワークショップの実施運営：本年度も、「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろうか？ Design thinking and acting : What and how do design students learn?」を引き続き開催いたします。議論に参加するメンバーは、デザイン学生、教員や研究者、プロのデザイナーで構成。各グループがあらためてデザインすることの意味や価値を考え、最後に会場全体に発表します。

④春季研究発表大会のテーマセッションの運営：各テーマセッションの企画者に座長の選任やグッドプレゼンテーション賞の推薦などセッションの当日運営を依頼する。

⑤本年度秋季企画大会における企画運営：東京造形大学となり10月25日（土）に開催される秋季企画大会で、研究推進に繋がる企画を企画する。

⑦来年度春季研究発表大会テーマセッション募集：今年末に募集を始めます。ふるって応募ください。

企画委員会 総合企画

委員長 松岡 由幸

今年度の企画委員会総合企画は、デザイン学における基盤研究の推進を図る所存です。

まず、本春季大会では、福井工業大学の皆様のご尽力により、大会テーマ「しあわせのデザイン」のもと、「50年後のしあわせな暮らし」、「インターフェースデザインの評価」、「演習課題から探る”しあわせ”のデザイン」、および「次世代デザインの枠組みをさぐる：行為の中で見出すデザインの実践」という4つのテーマのオーガナイズドセッションが行われます。

なお、オーガナイズドセッションのテーマに関しては、ここ数年、やや固定してきた感もあることから、次年度にむけて、新たな展開をすべく、委員会としては工夫していきたいと考えております。

さらに、10月25日（土）には、東京造形大学にて、秋季企画大会が行われる予定であり、現在、その準備を進めていただいている段階であります。

このほかにも、講習会やセミナーの実施を検討しており、これらの諸活動を通じて、デザイン学の発展と地位の向上を目指します。

企画委員会 支部企画

委員長 五十嵐 浩也

2013年度まで各支部における研究

発表大会、講演、ワークショップ、展覧会等の活動は活発に行われています。これらの活動は学会の根幹をなす活動として重要であることは言うまでもありません。現在、それぞれの活動においてそれぞれの出版物、Home Page、賞等がその活動の活発化とともに多く、かつ様々な方向性を有するに到ってまいりました。企画委員会としては、ここ数年各支部が発行している刊行物、デジタル媒体等の刊行物の取扱を検討して参りましたが、本年度もこの内容を継続検討する予定です。刊行物の体裁、運用指針、フォーマット、賞のあり方の検討を具体的に進める所存です。

また、活動単位としての支部地区制の見直しを法人化に向けての検討の推移と協働しながら検討することも本年度の活動の軸と考えております。

教育・資格委員会

委員長 古屋 繁

今年度は、昨年度までの活動を継承し、主要課題である「教育」と「資格」について、具体的な施策を計画・実行していきたく考えています。

具体的には、

1) 継続教育 (CPD)

「継続教育」は、デザイン学会の特徴を活かしたものであり、具体的なプログラムを企画していきます。

2) デザイン実務者の成果発表媒体

昨年度検討された作品集審査委員会や日本デザイン振興会と連携した企画構想案を具体的なものにしていきます。

3) 資格制度

「資格制度」は、「継続教育」とも関連する事案ですが、継続してJIDAとの連携を深めていきます。

また、技術者教育認定機構 (JABEE) への参画については、専門職大学院における認証評価やデザイン分野での資格の関連性など、その動向は注視する必要がありますが、学会活動の中での位置づけをより利用価値の高いものになるよう見直していきたく考えてい

ます。

広報委員会

委員長 岡本 誠

広報委員会は、学会の活動を社会や学会構成員に伝え、より良い関係を築くことを目標にしています。本年度の目標は、1) 学会外への情報発信について検討し、PR用パンフレットの作成を行う、2) 現在のWebサイトやメールマガジンの運営し、情報の発信・共有を推進する、3) 今後のWebサイトの検討です。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動します。

(1) 学生会員から正会員への移行、不明学生会員を減少させるための方策の検討。

(2) 学会の法人化を視野に入れた財務計画の立案。

(1) に関しては、学会全体としての会員数の増加につながる手立てについて、他の委員会と連携しながら積極的に打ち出して行きます。

(2) に関しては、学会誌編集出版委員会、本部事務局と連携しながら、概要集、研究誌、作品集の電子化に伴う収支のバランスのシミュレーションを行い、財務計画立案への基盤整備を行います。

市販図書企画・編集委員会

委員長 蓮見 孝

オンラインでの情報交換が一般化する時代ではありますが、知の記録・広報のためには、しっかりした編集活動や事業が求められます。今年度も引き続き、デザインの知を支える学会の図書企画・編集に、特に若手の幹事の支援を得ながら取り組んでいきたいと思

います。

今年度については、学会全体としての活動も視野に入れ、デザイン理論・方法論部会がこれまで進めてきた「デザイン科学事典」を、部会を超えた活動に拡張していくことを柱に、活動を進めていきます。

ここ数年の市販図書企画・編集委員会の活動は、たとえば、環境デザイン部会が発刊した書籍「つなぐ ー環境デザインがわかる」のケースに代表されるように、各部会や会員からのポトムアップ的な活動の色彩がやや強かったといえるかもしれません。このような、部会や地区、会員個人の出版活動を支援する立場から、出版図書をホームページで紹介するなど、活動活性化のためのきめ細かい施策も推進していく所存です。

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

Design シンポジウムは、デザイン・設計領域の知の統合を図るため、日本のデザイン・設計に関する学会の共催により、2年に一度開催されています。現在は、当学会に加え、日本建築学会、日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、人工知能学会の6学会が共同で運用しています。

今年度は、日本設計工学会が幹事学会として、11月11日から13日にかけて、東京大学駒場キャンパスで行われます。なお、知の統合をより進めるために、今回から、講演内容を、Design 理論、Design 方法論、Design 方法、Design 実践、および Design 知識とい枠組みに分類して、募集を行うことになりました。これにより、分野横断的なセッション構成を図ろうとしています。

当学会からは、小林昭世先生、永井由佳里先生、松岡の3名に加え、若手グループへは小野健太先生、佐藤浩一郎先生が参加しており、デザイン・設計に関わる他学会との連携を深める活動を進める予定です。

法人化対策特別委員会

委員長 國澤 好衛

本委員会は本年度から新たに設置された時限付きの法人化のための特別委員会です。まだ法人化へ進むべきかどうか、十分な議論がつくされてはいないので、まずは、改めて法人化によるメリット、デメリット、社会における学会の位置づけなど様々な視点から様々な要素を精査し、あるべき方向を定めたいと思います。

その後、そのあるべき方向に近づくための計画を立案し、実行してまいります。

IASDR 担当

担当理事 山中 敏正

本年度は、2015年大会への準備を行う年である。すでに決定しているQUT / Brisbane大会の運営のために、協力する。学会から推薦する理事として、杉山和雄監査にかわり渡邊誠副会長を提案し、すでにオンラインで開催される理事会において承認された。また、IASDRメンバーとして参加の希望が出されているCumulusならびに、Design and Emotionの参加資格について協議を続ける。秋に任期を迎える会長の選挙を行う予定になっているなど、体制強化の年である。

IASDR2015の開催日は2-5 November, 2015である。

横断型基幹科学技術 研究団体連合

担当理事 松岡由幸

元来、デザイン学は、横断型科学の根幹をなす学術領域であり、当学会は、横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考えます。この視点に立脚し、横幹連合に参画し、現在では、松岡が理事として参加しています。

今年度のイベントとしましては、4

月21日に定期総会が行われ、同月30日には「社会的課題解決のためのイノベーション」をテーマに、横幹技術フォーラムが東京大学で行われました。さらに、11月29日から30日にかけて、東京大学本郷キャンパスにて、第5回横幹連合総合シンポジウムが行われます。大会テーマは、「日本発：モノ・コト・文化（仮）」であり、当学会から多くの参加が望まれます。

日本工学会

担当理事 國澤好衛

日本工学会の「事務研究委員会」の議論は、学協会が抱える喫緊の課題そのものとなっています。その内、公益法人制度改革に伴う法人化への対応および学協会が連携して行う横断的な継続教育については、当学会においても極めて重要なテーマとなっています。特に、今年度は新しく設置された法人化対策特別委員会にて、年度内には方針を確定させるとともに来年度の総会で結論を出したいと考えています。これまで、日本工学会をベースに他学協会の動向などを探ってきましたが、今後この場を活用し法人化や継続教育への有用な視点を会員の皆様に提供していきたいと考えています。

第1支部

支部長 両角 清隆

第1支部では2年に1回、支部大会を開催し、この活動を中心に会員同士の連携を深め情報を共有する活動を進めて来た。これまでに、第1回仙台会場（東北工業大学）、第2回山形会場（東北芸術工科大学）、第3回函館会場（公立ほこだて未来大学）、第4回札幌会場（札幌市立大学）、平成25年に第5回仙台会場（東北工業大学）を開催し、二巡目に入った。

参加する大学も広がりつつあり、大きな社会の変化を支部なりに考えて、今後の支部で扱う内容について、以下の内容を幹事や支部メンバーで検討し

実施したい。

1) 学生が活動の中心となれるような取り組み。支部大会で学生が生き活きとした取り組みを行った実績を伸ばす方法を考え、実践する。

2) 地方が自立し、また世界とつながる方法の検討とモデル化。中央・地方という関係から、地方のそれぞれが自立する道を探り、世界と直接つながる可能性を広い意味でのデザインの視点から探りたい。

第2支部

支部長 五十嵐 浩也

第2支部は昨年度の活動の基本方針であった産学連携を継承して推進したいと考えております。

JIDA,JDPとも連携して、教育・研究者、学生と現場のデザイナーとの意見交換の場を幾つか設定したいと考えております。

研究推進委員会とも相談し、出来る限り多くの研究部会との連携によるセミナー、研究発表会を企画する予定です。

関東圏の多くの学会員の方々があるって参加いただけるような活動を目指しておりますが、まず9月に上記方針に則ったイベントを企画いたします。

第3支部

支部長 國本 桂史

昨年度までの会員交流と活動の活性化に加え、平成26年度は学生会員の拡大も目標として、下記の4事業を実施します。

1. サイエンスデザインカフェ事業

地域や他分野の人々との交流とデザイン啓蒙等を目的として、気軽にディスカッションができる“カフェ”形式の小規模講演会を本年度2回開催します。

【第1回】

日時：9月（日時未定）

講師予定：伊藤 邦久 教授 (College for

Creative Studies (CCS) トランスポートーション学科教授)

場所：愛知県名古屋市にて調整中

【第2回】

日時：12月（日時未定）

講師予定：間瀬 光人 准教授（名古屋市立大学大学院 医学研究科 脳神経外科学分野）

場所：愛知県名古屋市にて調整中

2. 第3支部研究発表会・懇親会

第3支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図ることを目的としています。例年3月に年1回開催し、学会発表の練習機会ともなっています。口頭発表とポスター発表があります。

日程：平成27年3月中旬予定

開催校：調整中

3. 会員間の情報交流の充実

メーリングリストサーバーを変更しWebサイトの充実により、会員間の情報の受発信の活性化を目指します。また、積極的な他支部との情報や人的交流も図ります。

4. 学生会による研究交流事業

各大学より大学院生と学部生とが参加して学生会を構成し、大学院生がリーダーとなり学生同士の研究交流を活発化することで、支部研究発表会への積極的な参加と、本学会への入会とを促進します。学生会を中心としたツアーイベント等の開催も検討しています。

第4支部

支部長 益岡 了

第4支部では1)ユニバーサルデザイン研究会、2)インタラクティブデザイン研究会、3)地域生活文化研究会、4)近畿・中国・四国地区研究会など関西地区における学術研究活動を実施して来ましたが、今年度もそれらの発展を図り、研究発表会や支部内の会員、デザイン学生の交流を目指して活動する予定です。

ユニバーサルデザイン研究会では、

実践的なUD活動を推進するための研究会を開催します。インタラクティブデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクティブデザインの関係について参加者との議論を行います。地域生活文化研究化ではフィールドワークを通して、生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねます。近畿・中国・四国地区研究会では、横断的なテーマを設定し、研究会を企画開催します。これらのこれらの活動を通じて地域間・大学間連携による議論の創出を図ります。

またメーリングリストなどを活用し、地域ネットワークの拡大と円滑なコミュニケーションを重視した支部活動を推進します。関連学会支部との研究会などの共催や新たな支部内の交流への取り組みを、支部メンバーの協力を得て検討します。

第5支部

支部長 井上 貢一

第5支部では、本年度も「学生デザイン展」と「研究発表会・懇親会」の2つの事業を計画しています。

1. 第6回九州沖縄地区 学生デザイン展

会場：九州芸文館 大交流室、アネックスA 福岡県筑後市大字津島 1131

日程：平成26年6月18日(水)～28日(土)

共催：NPO法人芸術の森デザイン会議、九州芸文館

本年度は、福岡県に新設された芸術文化の交流拠点「九州芸文館」にご協力いただき、会場費減免での開催が実現しました。

会場は福岡の都心を離れますが、九州新幹線筑後船小屋駅に隣接する会場で、期間はこれまでより長い11日間。

すでに70作品のエントリーをいただいております。活気ある展覧会となるよう準備中です。

2. 平成 26 年度 日本デザイン学会第 5 支部 研究発表会・懇親会

会場：九州産業大学 15 号館（芸術学部棟）福岡県福岡市東区松香台 2-3-1
日程：平成 26 年 10 月 18 日（土）

幹事の所属する大学をローテーションで会場として開催している本研究会、今年も福岡市東区にある九州産業大学が会場となります。大学院生の発表も多く、今年も約 50 件ほどの研究発表を前提に会場の準備を進めています。

8 月には、学会のメーリングリストを通してご案内を差し上げますので、是非ご参加下さい。

※尚、この研究会では、第 5 支部以外の地域の会員の方の発表も受付けております。

本部事務局

本部事務局長 小野 健太

本年度は、昨年に引き続き学生会員制度の定着により学生会員が更に増加する事が期待されますが、それにともなつて問題となりつつある、学生会員の継続・移行手続きの円滑化を進めることが重要と考えます。特に、卒業によって資格が切れる学生会員が正会員に移行してもらえるように働きかけ、正会員数を増加させる取り組みたいと思います。

各委員会活動、支部活動ができるだけ円滑に進むようサポートし、学会活動を支えていきたいと思ひます。特に近年活発化している各支部の活動に対して、本部事務局としてもできるだけ支援していきたいと思ひます。

また、事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えたスムーズな対応を心がけていきたいと思ひますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

家具・木工部会

主査 阿部 眞理

平成 26 年度においては、研究部会総会、および春季研究発表大会において研究部会主催のテーマセッション「伝統的資源と現在学」を実施する。研究部会総会については、春季研究発表大会中に開催する予定である。また、研究部会誌である「家具・木工通信」の年度末発行を目指す。家具・木工関連の情報については例年通り随時配信する。

デザイン理論・方法論部会

主査 松岡 由幸

デザイン理論・方法論部会は、これまで多くのデザイナーや研究者が集い、デザイン科学の基盤構築に努めており、『デザイン科学事典』の編纂に向け、その準備をする活動を進めてきました。平成 26 年度においては、その事典編纂を本格的に進める年度と位置づけています。

7 月 25 日には、慶應義塾大学において、デザイン塾「知の統合としてのデザイン科学、その理論と応用（仮）」を主催し、そのなかで『デザイン科学辞典』の編纂状況を紹介していく予定です。

創造性研究部会

主査 永井由佳里

社会を俯瞰したデザインによりイノベーションを創出することが期待されている。創造性研究部会メンバーを中心に学会内外の研究者、実践者、学生とさらに活発な議論を重ねていく。第 60 回春季研究発表大会では、創造性研究部会の企画によるテーマセッション「生活を豊かにするインタラクションのデザイン」で 10 件の研究発表を予定している。本年は、生活の質の向上を目標に、デザインに何ができるかという問題と、その方法を具体的に追求する。また、認知科学会等、デザイ

ンと密接な関係がある学術領域との連携によって、本研究部会は以前にも増して複雑な社会の問題に挑戦する。国際的には、2015 年 1 月に、本研究部会と関係の深い国際会議 The Third International Conference on Design Creativity がインドのバンガロールで開催され、2010 年以来継続しているデザインの創造性についての議論を深める機会として、大いに期待できる。

サービスイノベーションデザイン研究部会

主査 古屋 繁

昨年度は実施できませんでした。本年度は春季研究発表大会では、研究部会として研究発表セッションを行う予定です。現在、8 件の発表が予定されており、活発な議論が期待されます。また、10 月にはマレーシアで 4th ISIDC (International Service Innovation Design Conference) が開催されます。これの運営などに積極的に協力を行うとともに、国内で開催されるサービスに関する国際学会等にも、参加を呼びかけることで、他領域との交流を深めてゆきたいと考えています。

さらに、このところ停滞気味であった研究部会としても種々のサービスデザインに関する勉強会を、是非開催したいと考えています。

平成26年度（平成26年4月1日-平成27年3月31日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

| 項目 | 予算額 | 予算額内訳 | |
|----------------|------------|--|-----------------------------------|
| 平成25年度繰越金 | 11,598,845 | | 11,598,845 |
| 1 会費（現） | 16,406,000 | 正会員@13,000×1,484名×0.8(徴収率) 学生会員@6,500×(293名-不良徴収106名)×0.8(徴収率) | 15,433,600 972,400 |
| 2 会費（新） | 1,820,000 | 正会員@18,000×65名（一般 入会金：5,000、年会費：13,000） 学生会員@6,500×100名（入会金：免除、年会費：6,500） | 1,170,000 650,000 |
| 3 賛助会員費（現） | 910,000 | 29件 | 910,000 |
| 4 賛助会員費（新） | 30,000 | @30,000×1件 | 30,000 |
| 5 年間購読会員費（現） | 1,475,000 | 57件（¥1,475,000-） | 1,475,000 |
| 6 年間購読会員費（新） | 75,000 | @25,000×3件 | 75,000 |
| 7 広告費 | 100,000 | @50,000×2件 | 100,000 |
| 8 学会誌掲載別刷料・負担金 | 4,170,000 | 論文集別刷料・掲載基本料・加-印刷負担金（別刷料@25,000+掲載基本料@5,000）×12×6） 作品集掲載費・加-印刷負担金（@70,000×7+@100,000×6） 平成25年度作品集掲載費・加-印刷負担金 | 2,160,000 1,090,000 920,000 |
| 9 概要集売上金 | 2,100,000 | @3,500×600冊 | 2,100,000 |
| 10 雑収入 | 850,000 | 学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 | 50,000 800,000 0 |
| 計 | 39,534,845 | | 39,534,845 |

■支出の部

| 項目 | 予算額 | 予算額内訳 | |
|------------------------|-------------------|--|--|
| 本部事務局&理事会関係 | 9,022,000 | | |
| 1 本部事務局経費 | 8,122,000 | 消耗品代 運営経費（春季大会出張費用含む） パート雇用費（@180,000×12、@180,000×2） 通勤費（@6,000×12） 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料（@150,000×12ヶ月） 光熱費 アルバイト雇用費（宛名整理、書類作成、発送、名簿作成補助等） 税金準備金、労災保険料 | 300,000 200,000 2,520,000 72,000 200,000 1,000,000 250,000 150,000 150,000 1,800,000 140,000 1,150,000 190,000 |
| 2 理事会運営費 | 300,000 | 会場借用料、理事会運営経費等 | 300,000 |
| 3 役員活動費 | 600,000 | 役員の諸活動に対する補助 | 600,000 |
| 4 選挙経費 | 0 | 選挙に関する費用 | 0 |
| 学会誌審査・編集関係 | 1,540,000 | | |
| 5 論文審査委員会経費 | 480,000 | | 480,000 |
| 6 作品審査委員会経費 | 250,000 | | 250,000 |
| 7 学会誌編集・出版委員会経費 | 30,000 | | 30,000 |
| 8 特集号編集委員会経費 | 780,000 | 第21巻3号編集委員会 第21巻4号編集委員会 第22巻1号編集委員会 第22巻2号編集委員会 第22巻3号編集委員会 第22巻4号編集委員会 | 130,000 130,000 130,000 130,000 130,000 130,000 |
| 学会誌印刷・通信関係 | 24,350,000 | | |
| 9 印刷費 | 22,250,000 | 平成25年度論文集（1冊） 平成25年度特集号（4冊） 平成25年度作品集（1冊） 論文集（@1,250,000×6冊） 特集号（@900,000×4冊） 作品集（@2,500,000×1冊） 概要集CD（1000セット） 封筒代 | 1,250,000 3,600,000 2,500,000 7,500,000 3,600,000 2,500,000 900,000 400,000 |
| 10 出版物通信費 | 2,100,000 | 郵送料・事務代行料金 | 2,100,000 |

| | | | | |
|--------------|--------------------|-------------------|-------------------------------|-------------------|
| 大会関係 | | 2,001,250 | | |
| 11 | 大会補助費 | 750,000 | 平成26年度秋季大会補助 | 250,000 |
| | | | 平成27年度春季大会補助 | 500,000 |
| 12 | 春季大会概要集編集 委員会経費 | 646,250 | 前年度未払い分 | 200,000 |
| | | | 活動費 | 180,000 |
| | | | 演題登録システム (PASREG) 利用料, データ変換料 | 266,250 |
| 13 | 春季オーガナイズドセッション費用 | 320,000 | @80,000×4件 | 320,000 |
| 14 | 学会セミナー費用 | 100,000 | | 100,000 |
| 15 | 総会準備経費 | 20,000 | 総会経費、委任状・資料印刷代 | 20,000 |
| 16 | 学会各賞選考委員会経費 | 105,000 | 活動費 | 105,000 |
| 17 | 国際デザイン会議 | 60,000 | 国際デザイン会議会費 (500\$) | 60,000 |
| | | | 国際デザイン会議活動費 | 0 |
| 委員会関係 | | 1,250,000 | | |
| 18 | 委員会経費 | 200,000 | 共通貨 | 200,000 |
| 19 | 研究部会共通経費 | 400,000 | 共通貨 (現行16研究部会) | 400,000 |
| 20 | 支部活動補助費 | 600,000 | @150,000×4支部 (第一支部は来年度に繰越) | 600,000 |
| 21 | 市販図書企画・編集経費 | 50,000 | 編集費 | 50,000 |
| 広報関係 | | 550,000 | | |
| 22 | 広報費 | 550,000 | 大会ポスター, ちらし作成費・通信費 | 300,000 |
| | | | ホームページ管理・運営 | 200,000 |
| | | | その他 | 50,000 |
| その他 | | 821,595 | | |
| 23 | 学協会関連 | 375,000 | 学術会議活動費 (@30,000+@30,000) | 60,000 |
| | | | 芸術関連シンポジウム活動費 | 15,000 |
| | | | 日本工学会活動費 | 10,000 |
| | | | 日本工学会会費 | 40,000 |
| | | | CPD協議会会費 | 50,000 |
| | | | JABEE年会費 | 100,000 |
| | | | 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 | 70,000 |
| | | | 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 | 30,000 |
| 24 | 予備費 | 446,595 | | 446,595 |
| 25 | 次年度繰越金 | 0 | | 0 |
| 計 | | 39,534,845 | | 39,534,845 |